サカタのタネ
PASSION in Seed

NEWS RELEASE

2026.11.25

# 収量性が高い抑制・促成栽培向けトマト「いなみ®」種子発売

## 早生性に優れ、年内の収量が高い、黄化葉巻病耐病性の新品種



サカタのタネは、早生性に優れ、栽培期間を通して安定した収量が期待できる抑制・促成栽培向け大玉トマト「**いなみ**」の種子を営利生産者向けに 2027 年 5 月下旬から発売します。

「**いなみ**」は、抑制栽培において年内収量が高く、草勢が安定して強いので、収穫後半まで草勢を維持しやすい点が特長です。9～10 月は夏秋産地との端境期で単価が上がりやすく、抑制栽培の産地の多くはより早く収穫できる早生性を重視しています。一方、栽培後半となる春以降は気温上昇に伴って草勢が低下しやすく、果実の小玉化や黄変果（トマトの肩が黄色くなり、赤くならない果実）の発生など、多くの生産者が収量性・秀品率に課題を抱えています。「**いなみ**」は早生性と、栽培後半まで草勢が安定する性質を兼ね備えているため、抑制・促成トマトの収穫初期から後半まで、長期にわたり安定した収量が期待できる品種です。

また、「**いなみ**」はトマト黄化葉巻病への耐病性（※1）を備えています。同病害は九州から南東北の各産地においてトマトに深刻な被害をもたらしており、特に抑制・促成作型では耐病性品種が求められています。このほか、萎凋病(F:R-1,2)、ToMV(Tm-2a 型)、半身萎凋病、葉かび病、斑点病に抵抗性（※1）を有しています。

なお、「**いなみ**」は果実が硬く、輸送性・日持ち性にも優れ、当社の赤熟もぎりの統一青果ブランド「王様トマト」として出荷できる品種です。

大玉トマト「**いなみ**」の種子の希望小売価格（※2）は、1,000 粒入り袋で 47,850 円（税込）です。全国の JA、種苗店を通じて販売します。

……

● 株式会社 サカタのタネ 〒224-0041 横浜市都筑区仲町台 2-7-1
● https://corporate.sakataseed.co.jp

# 【報道用参考資料】

**■裂皮（がさ玉）の発生が少ない大玉トマト「いなみ」**

大玉トマトは果皮に細かいひび割れなどが入る「裂皮（がさ玉）」が発生することがあります。果実表面の結露による乾湿差がその一因とされています。特に葉が下方に巻く品種では果実が葉で覆われやすくなるため、果実温度が上がりにくく、日の出後に急激な温度上昇が起こりやすい低温期においては、果実結露が発生しやすくなる傾向にあります。結露に伴う「裂皮（がさ玉）」は昨今の重油代上昇に伴う低温管理により、産地でますます問題となっています。「**いなみ**」は葉が水平に立ち、果実が葉で覆われにくい性質があるため、果実温度が上がりやすく、風通しもよいため、結露がスムーズに乾きやすく、比較的「裂皮（がさ玉）」が発生しにくい傾向にあります。

この葉が立つ性質は、薬剤散布の際、葉裏まで薬液がかかりやすいため、病害防除の手間を軽減することにもつながります。

**■輸送性・日持ち性に優れる大玉トマト「いなみ」**

抑制・促成栽培トマトは、熊本県や栃木県など全国の産地から各消費地へ出荷され、輸送、市場、小売店を経て消費者に届きます。中でも、主要消費地から距離のある熊本県などの産地では、流通に日数を要することから、輸送性・日持ち性が特に重視されています。

一方、産地から消費地までの距離にかかわらず、流通段階で果実の品質を維持することは、大玉トマト共通の課題です。近年は春や秋にも気温の高い日があるため、輸送性・日持ち性は、地域や作型を問わず、大玉トマトにとって重要になっています。「**いなみ**」など、当社の赤熟もぎりの統一青果ブランド「王様トマト」として出荷できるトマト品種は、この「輸送性」「日持ち性」に優れることが特長の一つです。

**■サカタの黄化葉巻病耐病性の抑制・促成栽培向けトマト「いなみ」と「かれん」**

当社では黄化葉巻病耐病性の抑制・促成栽培向け大玉トマト品種として、「**いなみ**」のほかに「かれん」（＝写真＝）があります。「**いなみ**」は早生性に優れ、草勢も安定していることから、特に年内収量と春以降の収量性の向上に貢献できます。一方で「かれん」は厳寒期となる年明け以降、特に空洞果の発生が少なく、高品質な青果を安定して収穫できることに強みがあります。両品種を組み合わせて栽培することで、抑制・促成栽培トマトの収穫前半から後半まで、安定した出荷を実現できます。



※1 抵抗性と耐病性：当社は病害を抑える性質をその程度により「抵抗性」と「耐病性」という言葉で表しています。発病条件（温度、湿度、病原体の密度など）の影響を受けにくく安定したものに「抵抗性」を用いています。「抵抗性」は基本的には発病しませんが、発病を助長する厳しい条件や病原菌のレース分化・変異により発病する場合もあります。「抵抗性」に比べ発病条件の影響を受けやすいが、感染しても発病の程度が軽かったり、栽培する上で問題になりにくいものには「耐病性」を用いています。

※2 価格はすべて希望小売価格（税込）です。価格の自主的な決定を拘束するものではありません。